

シーニックバイウェイ北海道推進協議会の取組

第24回 シーニックバイウェイ北海道推進協議会

令和8年3月25日

1. 推進協議会の運営

2. 推進協議会構成団体・機関の取組

1. 推進協議会の運営

2. 推進協議会構成団体・機関の取組

■ 第22回シーニックバイウェイ北海道推進協議会の開催

令和6年12月9日(月) 14:00～15:20 札幌第一合同庁舎2階 講堂

- シーニックバイウェイ北海道推進のため「**第22回シーニックバイウェイ北海道推進協議会**」を開催しました。
- シーニックバイウェイルート**の指定**について**空知シーニックバイウェイ -体感未来道-**のルート提案を審議し、新たな指定ルートとして認定しました。
- シーニックバイウェイ「**秀逸な道**」選定区間の認定について審議を行い、**新たに3区間を認定**しました。
- 大和リース株式会社北海道支店との**包括的連携と協力に関する協定**について審議を行い、協定の締結を承認しました。
- 「**ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2023**」の審議を行い、各賞及び最優秀賞を決定しました。

■ 会議の様子



シーニックバイウェイ北海道推進協議会
岩田圭剛 会長
(一社)北海道商工会議所連合会 会頭



シーニックバイウェイ北海道推進協議会
坂場武彦 副会長
(北海道開発局 局長)



シーニックバイウェイ北海道アドバイザー-会議石田東生
委員長
(筑波大学大学院 特命教授・名誉教授)



空知シーニックバイウェイ-体感未来道-
植村正人 事務局長による
ルート提案内容の説明

■ 議事次第

- (1) 【報告】シーニックバイウェイ北海道の取組状況
- (2) 【審議】シーニックバイウェイルート**の指定**
- (3) 【審議】シーニックバイウェイ「**秀逸な道**」選定区間の認定
- (4) 【審議】ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2023
- (5) 【審議】包括的連携と協力に関する協定
- (6) 【報告】コロラドシーニック&ヒストリックバイウェイとの連携について



■ 令和6年度シーニックバイウェイ北海道セレモニー

令和6年12月9日(月) 15:30~17:00 札幌第一合同庁舎2階 講堂

シーニックバイウェイ北海道推進協議会は、令和6年12月9日に開催された『第22回シーニックバイウェイ北海道推進協議会』において審議された下記の事項について、式典を開催しました。



■ 式典プログラム

- (1) 包括連携協定企業 締結式
- (2) 新規ルート指定 認定証授与式
- (3) シーニックバイウェイ「秀逸な道」認定式
- (4) ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2023 表彰式
- (5) 2024年度グッドデザイン賞 受賞報告

■ 包括連携協定企業 締結式



▲大和リース株式会社北海道支店

■ 新規ルート指定 認定証授与式



▲空知シーニックバイウェイ -体感未来道-

■ シーニックバイウェイ「秀逸な道」認定式



▲「並木のウエルカムゲート
を抜けて絶景へと至る道」
東オホーツクシーニックバイウェイ



▲「汐風薫るいにしへの道」
どうなん・追分シーニック
ハイウェイルート



▲「北太平洋と湿地の風土に
息づく自然と漁業の道」
知床ねむる北太平洋
シーニックバイウェイ

■ ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2023 表彰式



最優秀賞

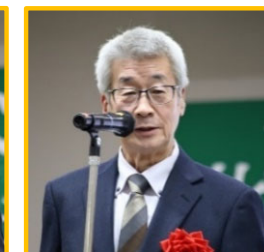
▲美しい景観づくり部門賞・最優秀賞
「サステナブルな景観づくり
マスタープランの再構築と実施」
釧路温原・阿寒・摩周
シーニックバイウェイ



▲活動団体賞
「～“流氷を見ながらドライブ”を”
地域のおもてなし活動を
継続中～R334が”トレイルの
雪かきボランティア活動」
東オホーツクシーニックバイウェイ



▲活力ある地域づくり部門賞
「流雪溝活性化プロジェクト」(左)
萌える天北オロロンルート
「～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクル
エリアを目指して～どうなんサイクルツーリズム推進事業」(右)
どうなん・追分シーニックバイウェイルート



▲魅力ある観光空間
づくり部門賞
「『天塩川』を軸とした
地域資源・活動PRと
歴史文化の伝承」
天塩川シーニックバイウェイ

■ 2024年度グッドデザイン賞 受賞報告



▲(一社)シーニックバイウェイ
支援センター 和泉代表理事

■シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラム 主催：シーニックバイウェイ北海道推進協議会 令和7年6月16日(月) 13:30～17:30 生活支援型文化施設コンカリーニョ

- 2005年3月に制度施行したシーニックバイウェイ北海道の20年間の活動を記念し、これまで歩んできた地域のソフトインフラストラクチャーとしての成果を振り返るとともに、新たな「シーニックバイウェイ・カルチャー」の発展について、次世代の担い手たちと共有する機会として、シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラムを開催しました。
- コロラドシーニック&ヒストリックバイウェイズ・コミッションとの連携に関する締結式を行い、今後のアイデアの共有及び文化・経済交流の活発化に合意しました。

参加人数	250名
テーマ	20年の歩みを辿り、明日の北海道を共に創る
プログラム	<p>①開会挨拶・基調講演</p> <p>②コロラドシーニック&ヒストリックバイウェイズ・コミッション×シーニックバイウェイ北海道推進協議会との連携に関する基本合意書締結式</p> <p>③リレートーク 第一部 テーマ：地域とともに築いた、ソフトのインフラストラクチャー ファシリテーター：橋本 幸氏 パネリスト：古谷 和之氏、高野 伸栄氏、藤井 美智子、和泉 晶裕</p> <p>④リレートーク 第二部 テーマ：ソフトのインフラストラクチャーが育む新たな文化 ファシリテーター：羽鳥 剛史氏 パネリスト：山崎 太地氏、山岸 奈津子氏、橋本 滯奈、宮崎 貴雄</p> <p>⑤講演 ～記念フォーラムに寄せて～「20年の思い出と記念フォーラムの総括」 石田東生氏</p>



開催案内チラシ

■フォーラムの様子

①開会挨拶・基調講演



開会挨拶
シーニックバイウェイ北海道
推進協議会 会長 岩田 圭剛



基調講演
シーニックバイウェイ北海道
推進協議会 副会長
北海道開発局長 坂場 武彦

②コロラドシーニック&ヒストリックバイウェイズ・コミッション×シーニックバイウェイ北海道推進協議会との連携に関する基本合意書締結式



③リレートーク 第一部 『地域とともに築いた、ソフトのインフラストラクチャー』



④リレートーク 第二部 『ソフトのインフラストラクチャーが育む新たな文化』



⑤講演



シーニックバイウェイ北海道
アドバイザー会議委員長
石田東生氏

ルート点検(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)

令和7年7月29日(火)～30日(水)

ルート視察

ルート活動である「阿寒湖フォト
コンテスト写真展」や「秀逸な道」
での景観改善の取組等を視察

意見交換

視察結果を踏まえてルートと
アドバイザー会議委員による
意見交換を実施



ルート点検(宗谷シーニックバイウェイ)

令和7年10月6日(月)～7日(火)

ルート視察

地域資源であるサロベツ湿原等の
見学や「秀逸な道」でのサイクリング
体験等による視察を実施

意見交換

視察結果を踏まえてルートと
アドバイザー会議委員による
意見交換を実施



第3回アドバイザー会議

令和7年7月29日(火)

バスプロ2024審査、20周年フォーラム開催報告



ブロック会議

令和7年10月9日(木)～10日(金)
道東ブロック (根室市開催)
あたりまえワークショップ、
ごみを捨てさせない対策、エクスカージョン

あたりまえワークショップ



令和7年10月14日(火)～15日(水)
道北ブロック (名寄市開催)
あたりまえワークショップ、
「道北ルート連携フォトコンテスト2025」審査会、
エクスカージョン

あたりまえワークショップ



令和7年11月17日(月)～18日(火)
道央・道南ブロック (函館市開催)
あたりまえワークショップ、エクスカージョン

あたりまえワークショップ



奥行臼駅遺所、琵琶瀬木道等を視察



北国博物館及び名寄公園みずなら林を視察



函館西部地区のまち歩き等を実施



1. 推進協議会の運営

2. 推進協議会構成団体・機関の取組

ルート連携・支援方策

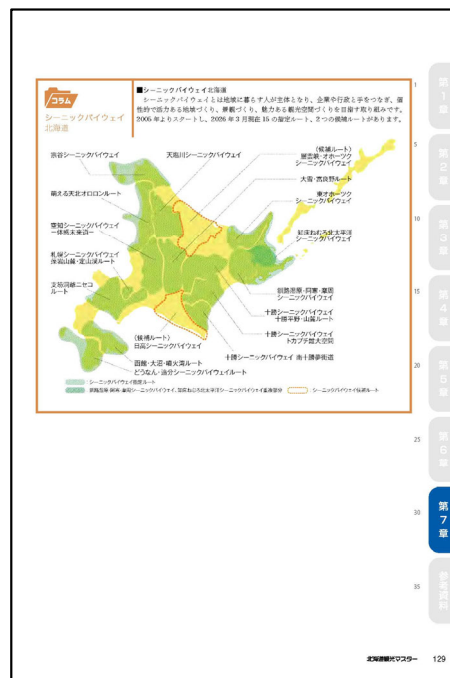
【情報発信】

- ◇ 広報誌、広報媒体（HP等）、構成員へのメール配信による情報発信の協力など
- ◇ 北海道観光マスター検定受験対策テキスト「北海道観光ハンドブック」（第1版※2006年発行時より）への掲載を通じたPR

▼北海道観光マスター検定
公式テキスト第10版(2026年3月末発刊)



▼テキスト内 コラム



「秀逸な道」広報の支援方策

- ◇ 構成員へのメール配信による情報発信の協力
- ◇ 事務所受付スペースへのポスター・資料設置

▼事務所応接スペースへの資料設置



ルート連携・支援方策

【情報発信】

◇会員向けのメールマガジンによる情報発信

◇会報誌への寄稿、裏表紙への写真などの掲載

(発行は2ヶ月に一度、他からの掲載依頼もあるため、掲載できるか否かは、その都度、決定される)

◇当会が支援する観光デジタルチケットサイトに、観光情報ページ又はリンク掲載等連携検討



ルート連携・支援方策

【助成事業】

- ◇北海道のむらおこし関連の助成事業での専門家の派遣
- ◇今年度相談はなかったが、次年度も北海道のむらおこし関連の助成事業での専門家の派遣支援を継続する。
- ◇冊子の配布によるシーニックバイウェイの紹介

ルート連携・支援方策

【助成事業】

◇「伴走支援型観光地域力強化推進事業」（募集期間:例年3~4月上旬公示、4月下旬締切）

(公社)北海道観光機構が主体となって、地域の観光協会等が実施する
新たな商品づくり等の取組を支援し、地域経済の活性化を図ります。

【令和7年度事業】

事業区分	交付対象者	支給額	事業の取組方針
DMO枠	道内の登録DMO又は候補DMO	上限 1,000万円	(1)ガストロノミー・ツーリズム・ワインツーリズムの推進 (その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズム。ワイン、日本酒、ウイスキー等を含む酒をテーマとしたツーリズム) (2)ケア・ツーリズムの推進 (癒やしや健康、ユニバーサルツーリズムなど、心と体のケアをテーマとしたツーリズム) (3)ナイトタイム・エコノミーの推進 (自然資源の夜間活用など、夜間消費拡大をテーマとしたツーリズム) (4)アドベンチャートラベルの推進 (アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成されるツーリズム) (5)※その他
地域単独枠	市・町・村の範囲内において、地域の観光資源の掘り起こし、磨き上げなどによる観光地づくりを推進する観光団体（地方公共団体含む）	上限 200万円	
広域連携枠	複数の市町村に跨り、広域的な観光地づくりのための連携体制の構築を行う観光団体（地方公共団体含む）	上限 400万円	
チャレンジ枠	商品化に向けた地域課題の解決、魅力向上、事業計画策定に向けた検討、取組などを行う観光団体（地方公共団体含む）	上限 100万円	

※「その他」の取組例

ワーケーションの推進、ゼロカーボンの推進、本道の特色を活かした観光地づくりの推進等

ルート連携・支援方策

【取組】道内観光地の受入基盤整備のため花木の植栽活動や沿線的美観維持のための清掃活動に対する地域への支援を実施

【植栽活動支援】

◇プランター配付事業

時期：地域観光協会等に対してプランター希望を9月頃に募集し、10月頃に採択翌年配布

概要：耐久性に優れた（耐久15年以上）

プランターを複数本配付

令和7年度：芝ざくら滝上公園（滝上町）に4基設置



上下の高低差を活かし立体的に植物を見せることが可能

半割丸太を縦に使ったデザインが植物や空間をシャープな印象で引き立てる



【清掃活動支援】

◇観光地合同美化キャンペーン事業

観光地の美化推進を実施するため地域の観光団体と連携して清掃活動等を実施

時期：6月頃より降雪前（11月）まで

令和7年度実施協力団体：層雲峡観光協会、定山溪観光協会、小樽観光協会、江差観光コンベンション協会、すすきの観光協会



左上：層雲峡温泉市街地（9月）

野生動物が多く出現するエリアでありゴミ箱が設置できないため、定期的に清掃活動を実施。

観光関係者74名が参加

右上：定山溪・二見定山の道（8～11月）

遊歩道周辺の倒木処理や笹狩りを実施
定山溪自然クラブ会員等 のべ24名参加

左下：小樽運河美化活動（6～10月）

おもてなし推進委員会、小樽観光協会
会員事業者等 のべ100名参加

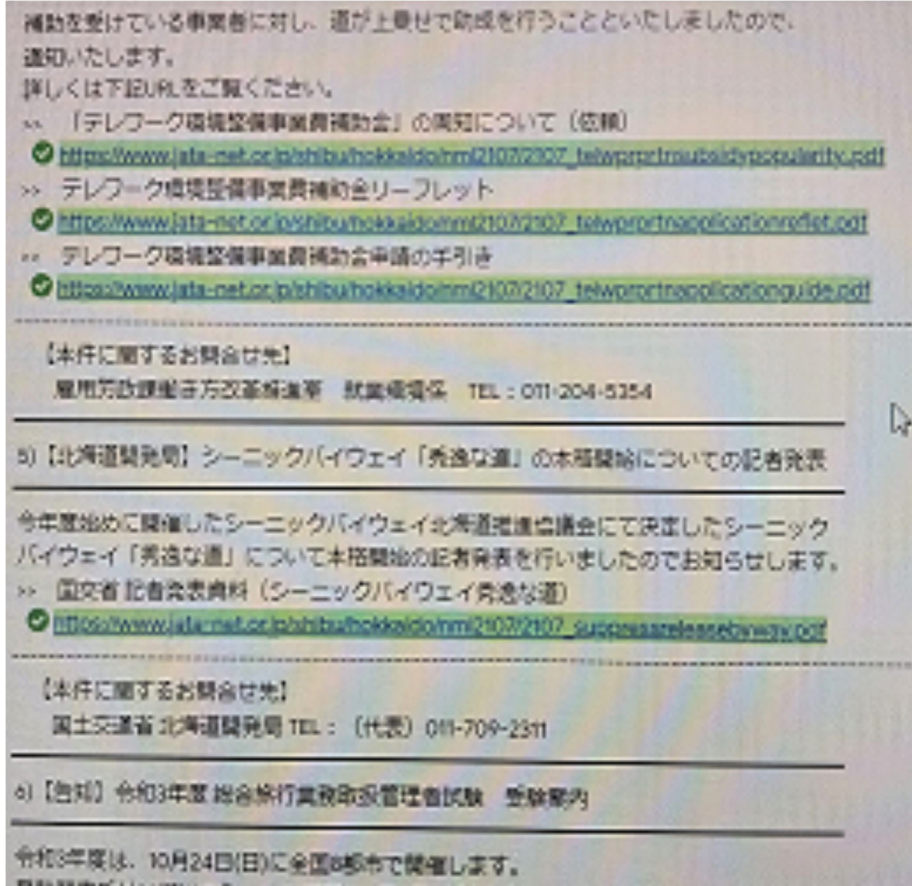


ルート連携・支援方策

【情報発信】

- ◇国内・訪日旅行委員会等の会員に情報の共有化を図る。
- ◇道内会員（36社）へのメール配信による情報の共有化を図る。

会員に発信した記者発表の時のニュースメール



「秀逸な道」広報の支援方策

【情報発信】

- ◇ツアーの付加価値を増す素材として、本部を通して情報発信を行う。

ルート連携・支援方策

◇北海道本部管内6支部のネットワークを活用した連携活動
札幌・函館・旭川・釧路・帯広・北見 に所在する支部と
近隣のルートとの連携活動の実施。

活動例：

- ▶ イベントの実施
- ▶ 会員向けの優待企画の実施
(シーニックカフェでの割引等)
- ▶ プレゼント企画の実施
(賞品の協賛やアンケートの取得)
- ▶ 地域課題解決に向けたプロジェクトの立ち上げ
(産学連携等)

などなど、J A F 会員向けに
J A F 所有の媒体を活用して
広報することで、各ルートの
認知度向上につなげる。



「秀逸な道」広報の支援方策

◇ J A F 所有媒体を活用した広報および認知度向上策の実施
左記に挙げたような連携活動を J A F が所有する媒体で
情報発信を行い、ルートの認知度向上に貢献

- ▶ 紙媒体：J A F 会員機関誌『J A F M a t e』ならびに
『J A F P L U S』 (いずれも年4回発行) への掲載。
- ▶ ウェブ媒体：J A F 各支部が情報発信している『J A F ご当地
情報』への掲載。

※JAF札幌支部のご当地情報 (▼)



<https://jaf.or.jp/common/local/hokkaido/sapporo>

右の二次元コードから
札幌支部ご当地情報へ
リンクします。▶



ルート連携・支援方策

【活動交流】

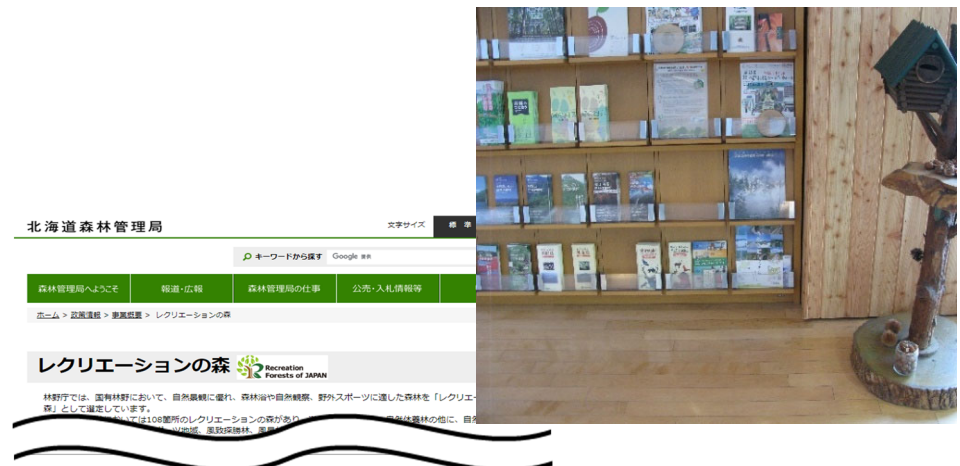
- ◇国有林には各地に景観等を重視し、森林を癒やしの場として設定している「レクリエーションの森」がある。その中で、特にみなさまに訪れていただきたい森を「日本美しい森 お薦め国有林」として選定しており、道内では20箇所が選定されている。見所の一つとして、シーニックバイウェイのルートと連携できるようであれば、管轄する森林管理署及び北海道森林管理局に相談いただきたい。



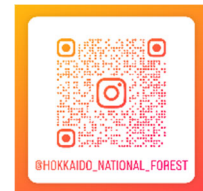
http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/index.html

「秀逸な道」広報の支援方策

- ◇北海道森林管理局・各森林管理署等でパンフレットの配置等。
- ◇北海道森林管理局ホームページにリンクの掲載。
- ◇今後、SNSによるイベント情報等の発信



右の二次元コードから
Instagramへ
リンクします。▶



ルート連携・支援方策

【支援事業】知的財産を活用した地域ブランド力向上支援事業

北海道が有する多様な地域資源（歴史・文化、自然・風土、農林水産加工品、飲食、観光サービス等）を活用した観光商品・サービスのブランド力向上のため、商標（地域団体商標含む）等の知的財産を活かした観光ブランド構築支援を通じて、観光ブランド形成に繋がる地方創生の取組を支援。

【募集時期】令和8年6月頃（予定）

【募集団体】観光地ブランド化を考えている団体、観光に係る商標の出願を検討している団体、観光に係る商標取得後の活用方法に課題を有している団体
（自治体、観光関連団体、商工会、商工会議所等の商工関係団体、事業協同組合 等）

【支援内容】

- ・観光のブランド化や商標出願等を検討する団体を公募
- ・課題やニーズに応じた**専門家**を5回派遣。地域の観光関連事業者、自治体等で構成されるWSを開催し、デザイン経営の視点※を取り入れ、地域の資源を活かした**ブランド戦略策定に向けたロードマップ**を策定。

※「歴史や強みの棚卸し」、「内外の関係者の巻き込み」、「魅力ある物語の発信」、「心をつかむコンテンツづくり」等の視点

○支援事例 ※地域ニーズに応じて北海道運輸局、INPIT北海道知財総合支援窓口、(一社)電源地域振興センターと連携

令和6年度 環駒ヶ岳広域観光協議会（七飯町・森町・鹿部町）
一般社団法人そうべつアウトドアネットワーク（壮瞥町）

令和7年度 NPO法人だて観光協会（伊達市）
岩見沢タータン協議会（岩見沢市）

ルート連携・支援方策

●美しい景観づくり

シーニックバイウェイの各ルートと広範に重複する道内7つの国立公園内において、以下を主要業務として実施し、各ルートの魅力向上・維持に貢献

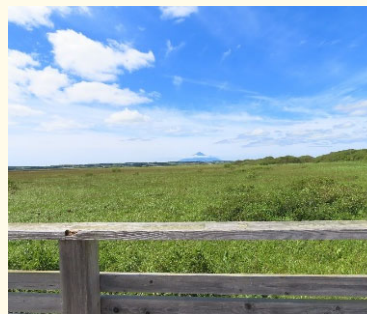
- ① 自然資源の保全 (自然再生事業及び外来種駆除、希少種の保全)
- ② 自然公園法に基づく風景管理 (開発規制及び構造物のデザイン調整)
- ③ 公園事業施設におけるサービス提供 (環境省直轄、交付金事業)

●魅力ある観光空間づくりについて

2016年以降、さらなる誘客促進に向けて満喫プロジェクトを実施、2023年には国立公園での感動体験を約束するブランドプロミスを発表

環境省は、国立公園や鳥獣保護区の素晴らしい自然や地域の文化をわかりやすく紹介するデジタルセンター等を整備しています。

周辺の見どころ、利用上のルール・マナーも知ることができます。トイレやWi-Fi等が利用でき、カフェ、休憩スペースが設置されている施設もあります。



サロベツ湿原センター展望デッキからの眺望
※シーニックデッキに登録済

【活動交流】

◇国立公園における清掃活動の連携

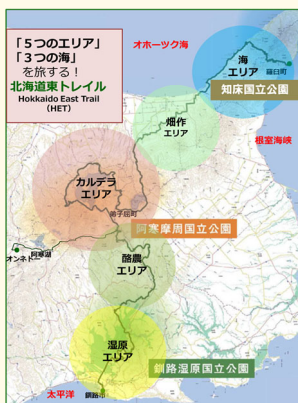
・GW (グリーンワーカー) 事業

「支笏洞爺ニセコルート」、「十勝シーニックバイウェイ (十勝平野・山麓ルート)」、「層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ」において、環境美化のための清掃活動を実施

十勝シーニックバイウェイ (十勝平野・山麓ルート) におけるGW清掃業務実施箇所



※赤丸は今年度の実施箇所



◇北海道東トレイル 英名: Hokkaido East Trail (HET)

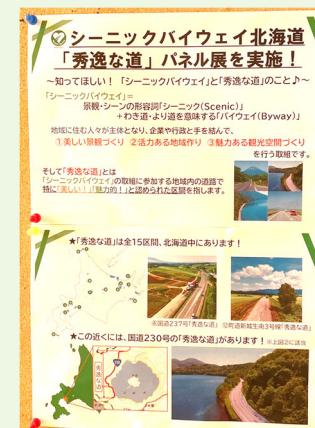
総距離約400km、道東3国立公園 (知床・阿寒摩周・釧路湿原) と地域を結ぶ、長く一本に繋がった歩く旅の道「ロングトレイル」を推進しています。
※ 2024年10月全線開通

- ・長く1本に繋がった道は人々を魅了し、歩くことを目的に人々が訪れる。
- ・滞在の長期化、新たな観光サービスやJR網線やサイクリング、カヌー等を組み合わせた新コンテンツ創出が期待される。
- ・主に釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ、東オホーツクシーニックバイウェイと連携。

「秀逸な道」広報の支援方策

【情報発信】

- 洞爺湖VCにてシーニックバイウェイ北海道「秀逸な道」パネル展等の協力



↑デジタルサイネージ
パネル展↓



ルート連携・支援方策

【補助事業】

◇観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業

<https://juyobunsan.go.jp/>

【情報提供】

◇観光庁HP 観光地域づくりのための支援メニュー集

https://www.mlit.go.jp/kankocho/jirei_shien/kankochiikizukuri_shien.html

◇運輸局HP「観光地域づくりNAVI2025-2026」

<https://www.ttb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/kankou/tiiki/navi/index.html>

観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業



事業目的・背景・課題

- インバウンド需要は増加傾向にあるが、訪日外国人旅行者は都市部をはじめとする一部地域に偏在している状況が続き、オーバーツーリズムが顕在化。訪日外国人旅行者は、諸外国滞在時と比べて娯楽サービス費支出が低く、旅行者の観光需要への対応が不十分となっている。
- 観光による経済効果を全国津々浦々に波及させ、観光消費を効果的に拡大させるとともに、持続的な地方誘客によりオーバーツーリズムの解消につながるよう、地域において観光コンテンツの供給を促進するとともに、観光の付加価値を高めるガイド人材の質的向上が必要である。

事業内容

- 需要分散に資する観光コンテンツの供給に向けた取組を支援する。具体的には、
 - ▶ 多様な地域資源を活用した観光コンテンツの造成や情報発信、販路開拓等を総合的に支援
 - ▶ インバウンドのニーズを踏まえ、品質を高めた高単価な観光コンテンツや、地域産業への波及効果が期待できるガストロノミー分野の観光コンテンツ等を重点的に支援
 - ▶ その際、継続的な販売につながるよう、デジタル上での効果的な情報発信等を促進
- 観光コンテンツとガイドの一体的な質的向上に向け、コンテンツに応じたスキル・研修設計、ガイドの評価制度と報酬体系の構築のあり方、ガイドの可視化手法等について調査する。

【支援対象事業】

- ① **新創出型** 地域資源を活用した観光コンテンツの造成、効果的な情報発信や販路開拓等を支援
- ② **品質向上型** より高単価なインバウンド向けのオプションツアー等の造成に向け品質向上等の取組を支援
- ③ **分野特化型（ガストロノミー）** 地域の食資源を活用し、幅広い連携により、地域の食文化を体感できる質の高い観光コンテンツの造成、販路開拓等を支援

事業スキーム

- 事業形態：調査事業等、間接補助事業
- ① 新創出型：400万円まで定額、400万円を超える部分は事業費2,100万円まで補助1/2（最低事業費 600万円）
- ② 品質向上型：800万円まで定額、800万円を超える部分は事業費4,200万円まで補助1/2（最低事業費1,200万円）
- ③ 分野特化型（ガストロノミー）：400万円まで定額、400万円を超える部分は事業費2,500万円まで補助1/2（最低事業費 600万円）
- 補助対象：地方公共団体、DMO、民間事業者等

担当課室：観光庁 観光資源課

事業イメージ

<p>地域資源を活かした観光コンテンツの造成</p> <p>文化資源の活用（伝統工芸）</p>	<p>品質を高めた高単価な観光コンテンツの造成</p> <p>地域の伝統行事の活用</p>
<p>ガストロノミー分野における観光コンテンツの造成</p> <p><地域一体的な食文化体験></p> <p>生産現場と食体験の連動</p>	
<p>伝統工芸品での高品質な食体験</p> <p>コンテンツとガイドの一体的な質的向上</p> <p>以下の取組のあり方について調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツに応じたスキル・研修設計 ・ガイドの評価制度・報酬反映体系の構築 ・コンテンツとガイドのマッチングシステム構築 ・実践的研修の実施 	

「秀逸な道」広報の支援方策

【情報発信】

◇道内自治体の観光担当部署等へのメール周知

300名以上の関係者へ定期的に情報発信

※令和8年2月末時点

件名： 【ご案内】2/13(金) 13:00～「観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業」説明会

道内各自治体 観光ご担当者様 各位
(BCCにて送信しております)

いつもお世話になっております。
北海道運輸局観光部国際観光課の石田です。

観光庁は、「観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業」の事業説明会を令和8年2月13日(金)に開催することといたしましたのでお知らせいたします。

詳細は以下をご確認いただき、参加を希望される方は期日までにお申し込みください。

■ 事業説明会概要

開催日時：令和8年2月13日(金) 13:00～14:00

場 所：オンライン (Zoomを活用したウェビナー形式での実施)

内 容：

- ・事業概要
- ・申請のポイント
- ・質疑応答

参加方法：説明会のご参加には事前の登録が必要となります。

下記の申込フォームにアクセスしていただきご登録ください。

説明会のURLは申込後にご案内いたします。

本事業サイトURL：<https://juyobunsan.go.jp/>

申込フォーム：https://zoom.us/webinar/register/WN_RKDjDuOkSFSPWCUvBhoMkA

■ 観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業概要

オーバーツーリズムの解消に向けて、インバウンドの需要を分散させる観光コンテンツの供給を促進することを目的とし、地方公共団体、DMO、民間事業者等による、多様な地域資源を活用した観光コンテンツの造成や情報発信、販路開拓等の総合的な支援を行います。

【補助対象】

地方公共団体、DMO、民間事業者等

【公募期間】

令和8年2月27日(月)～4月2日(木)

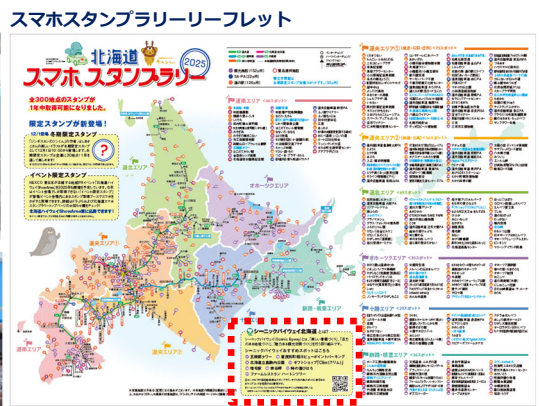
事業詳細、申請方法などについては、今後、本事業サイトにてご案内いたします。

ルート連携・支援方策

- ◇ 「北海道ハイウェイShow Area」 ルートブース出展
 - ※休憩施設（SAPA）等で、地域の魅力を発信するイベント
 - (R7) 輪厚PA[Ⓔ] 「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」
 - 「十勝シーニックバイウェイトカプチ雄大空間」
 - 砂川ハイウェイオアシス 「層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ」
- ◇ 「北海道スマホスタンプラリー」 スタンプ取得スポット登録・HPバナー設置
- ◇ 「北海道ドライブガイド（多言語版含）」掲載 ※観光情報誌
- ◇ 「ドラ割道トクふりーぱす」HP掲載 ※高速道路料金割引
- ◇ 上記各道内周遊促進施策プレスリリース内掲載
- ◇ 「ドラぷら」内観光情報ページ内バナー設置 ※高速道路情報サイト
- ◇ 休憩施設等の情報コーナーにおける冊子設置

「秀逸な道」広報の支援方策

- 【情報提供】
- ◇ 「北海道ドライブガイド」掲載
- ◇ 「北海道スマホスタンプラリー」HPバナー設置



各プレスリリース内掲載内容

美しい風景に由来する「シーニックバイウェイ（ScenicByway）」とは、景観・シーン（Scene）の形容詞シーニック（Scenic）と、わき道・より道を意味するバイウェイ（Byway）を組み合わせた言葉です。

みちをきっかけに地域と行政が連携し、「美しい景観づくり」、「魅力ある観光空間づくり」を行う取り組みです。各ルートでは、道路の花壇や清溝、「魅力ある観光ポイント」の整備や情報発信など、それぞれの地域ごとに特徴ある活動を展開しています。現在、15の指定ルートと2つの候補ルートがあり、約500団体が活動しています。NEXCO東日本北海道支社もこの取り組みに参加しています。

詳しくは、シーニックバイウェイ北海道ホームページ①をご覧ください。

